

県内における新型インフルエンザ検査状況(2)

患者発生状況：本県では、2009年6月29日に初めて新型インフルエンザの患者が確認されたのをきっかけに患者が急増し、第34週(8/17～23)にピークとなりました。その後、いったん減少しましたが再び増加し、2010年1月現在、終息する兆しはまだ認められておりません。患者の増加に伴い、重症化し入院するケースも報告されるようになり、残念なことに県内でも3名死亡例が報告されています。2010年第1週(1/4～10)に入ってから定点あたり45.14人と、全国平均9.18人と比べ高い水準で患者が報告されており、今後も注意が必要です(図1)。

ウイルス検査状況：当研究所では、新型インフルエンザ患者の発生状況に応じて、『全数報告』、『クラスター(集団発生)』、そして『入院および病原体定点』というサーベイランス(=継続的な調査・監視)を実施してきました(図2)。

現在実施しているサーベイランスでは、重症例や入院例患者、県内の定点医療機関でインフルエンザと診断された患者の喉(のど)や鼻から採取されたサンプルを用いて、ウイルス学的な検査や遺伝子解析を行い、次のことについて調べています。
 (1)新型の他にソ連型や香港型などの季節性インフルエンザが混ざっていないか。
 (2)インフルエンザ治療薬であるオセルタミビル(タミフル)に対する耐性ウイルスが流行していないか。
 (3)新型インフルエンザワクチンと比べてウイルスが変異していないか。

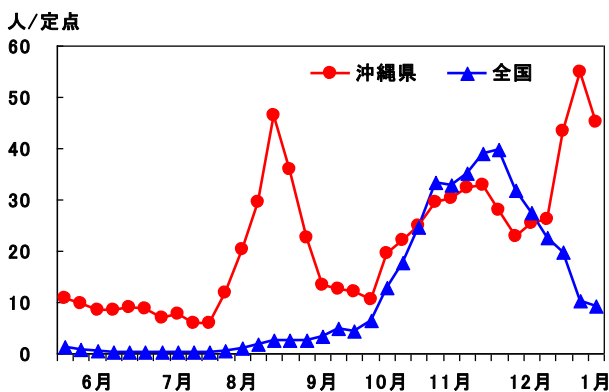


図1. 患者報告数(2009～2010年)
 [沖縄県感染症情報センターより]

これまでの調査結果から、2009年8月～2010年1月までに検出したウイルスに季節性インフルエンザは含まれておらず、全て新型インフルエンザであることが判りました(図3)。また、新型インフルエンザにおいては、タミフル耐性および変異したウイルスは確認されていません。

当研究所では、これらの調査を今後も継続していく予定です。

【衛生科学班】

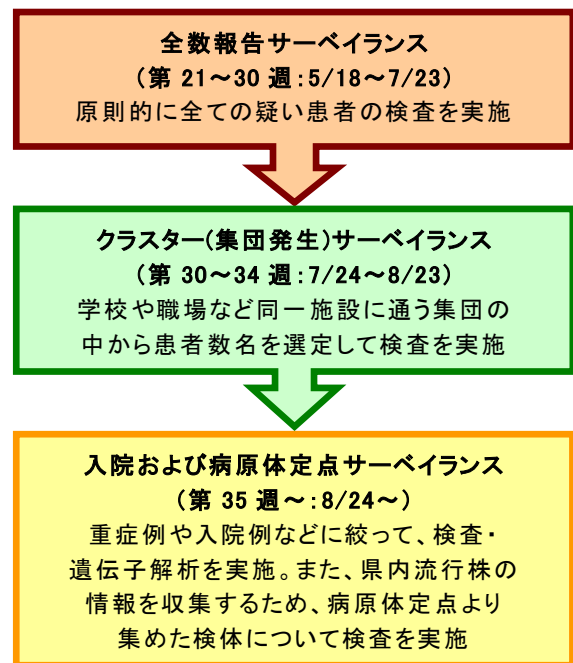


図2. サーベイランスの変遷

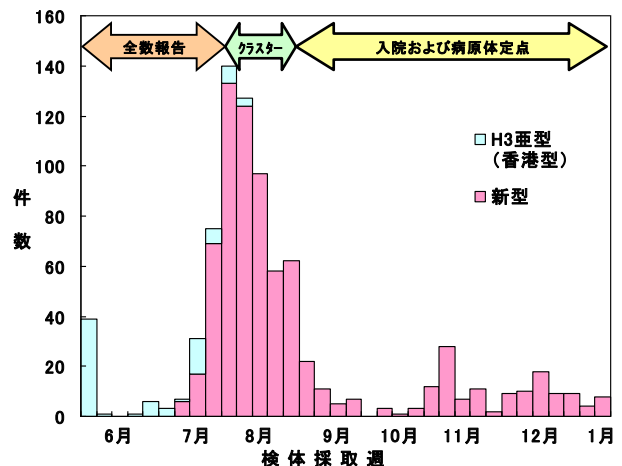


図3. ウイルス検査状況(2009～2010年)